

チェンマイ県青少年へのHIV／AIDS予防教育事業(第1期)
(中間報告期間:2013年8月1日～2013年12月31日)

特定非営利活動法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

1. 高等専門学校職員への事業説明会



チェンマイ県保健局職員らと共に 6 つの高等専門学校を訪問し、理事長含め学校職員に当事業の説明を行った。当事業は、普段から学生と接する機会の多い学校職員の理解と協力が不可欠であるため、合同説明会とは別に、学校ごとに説明会を設けた。

2. 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室への合同事業説明会



藤井総領事、高等専門学校理事長、ピアエド्यूケーターら関係者 60 名に出席頂き、当事業の開会を宣言し、今後の事業の方向性を確認した。

3. 大学生ピアエドゥケーターリフレッシュ研修



当団体が今まで育成してきた大学生ピアエドゥケーターが、最新の HIV/AIDS 情報を学び、高等専門学校
のピアエドゥケーターを指導できるように研修を行った。6 大学から参加した計 46 名の大学生ピアエドゥケ
ーターを再教育した。チェンマイ県保健局職員、性感染症予防センター職員らが講義を行った。

4. 高等専門学校生ピアエドゥケーター育成研修



HIV/AIDS に関する知識を得たうえで、ピアエドゥケーターに必要なリーダーシップ能力や活動計画書作
成能力等が身につくように研修を行った。6 つの高等専門学校から計 121 名の高等専門学校生ピアエド
ューケーターを育成した。チェンマイ県保健局職員、病院看護師、大学講師らが講義を行ったあと、参加者
間で、いかに性交渉の開始を遅らせることができるについてグループディスカッションを行った。大学生ピ
アエドゥケーターも参加し、実際のピア教育例(感染拡大ゲームやコンドームの使い方等)を披露した。

5. 高等専門学校の職員を対象にしたカリキュラムやモニタリングツール作成のための会議開催



当団体が大学生向けに使用していた教育教材を、高等専門学校の生徒に適した内容に変更するために
話し合いを行った。大学生対象の教材よりも簡潔で分かりやすい教材を作成した。2 回の会議にチェンマ
イ県保健局職員、性感染症予防センター、学校職員が参加した。

6. 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ



各学校の高等専門学校ピアエドゥケーターや担当教員と共に今後の活動案やメディア教材作成について議論し、必要なサポートを行った。ここでの話し合いをもとに、今後はピアエドゥケーターが同じ学校の学生にピア教育を行っていく。

7. ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会



高等専門学校生ピアエドゥケーター60名が独自のアイディアで企画したピア教育プログラムや、自ら作成したメディアを発表した。HIV 感染予防を訴えるショートフィルムやチラシ、また学内に設置するコンドーム箱らのアイディアが発表され、専門家から更なるアドバイスをもらった。この発表会を行うことで、ピアエドゥケーターを鼓舞し、リーダーシップ能力の向上にもつながった。

8. ピア教育活動



報告期間内では5つの高等専門学校で5回のピア教育(計619名参加)、6つの学校で計7回の特別キャンペーン(計1850名参加)を実施した。また、世界エイズデーには移動検診車を使い、高等専門学校やデパートで3回のHIV抗体検査(計158名が受診し、そのうち57名が当事業の対象年齢14～19歳)を実施した。ピア教育では、HIVの感染拡大を分かりやすく伝える水を使ったゲーム(写真左)や、思春期に起こる体の変化を学ぶゲーム(写真右)を行った。

9. 四半期会議の開催



チェンマイ県保健局職員や学校職員、ピアエデュケーター等 48 名参加し、今後のピア教育の計画等を話し合った。また、当事業を通じて、この数カ月間に学校職員とピアエデュケーター間のネットワークを築くことができた等、前向きな意見が聞かれた。

以上